



二 ―線部の「二人の兄弟」は、この物語の中でどのような性格の人物として描かれていますか。「一 榎木の実」と「二 釣の話」を通して分かる性格を、それぞれ書きなさい。

三 ―線部の「しきりと」の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 寂しげに
- 2 改めて
- 3 何度も
- 4 注意深く

四 「……」で囲まれた部分には、兄弟が目的を達成できなかった場面のもとに続く話が書かれています。あとに続く話は、「二 榎木の実」にはありますが、「二 釣の話」にはありません。このような展開になっていることは、「二人の兄弟」という物語においてどのような効果があると考えますか。あなたの考えとその理由を具体的に書きなさい。理由を書く際には、物語の内容を取り上げて書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

## 出題の趣旨

文学的な文章を読む場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 表現の効果について、根拠を明確にして考えること
- ・ 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること
- ・ 事象や行為を表す語句について理解すること
- ・ 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること

「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。また、[知識及び技能]の「(3)我が国の言語文化に関する事項」に位置付けられている「読書」に関する指導事項との関連を図り、生徒の日常の読書活動に結び付くように指導することも重要である。

文学的な文章を読むためには、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、観点を定めて読むことが必要であり、そのことによって深い理解や感動が得られる。また、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることも重要である。

本問では、島崎藤村の「二人の兄弟」を取り上げた。この物語は「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されている。「一 榎木の実」には失敗した場面のもとに成功する場面が描かれているのに対し、「二 釣の話」は失敗談で終わっている。このような文章を読んで、叙述を基に登場人物の性格を捉えたり、語句の意味を理解したりするとともに、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることを求めている。

## ■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

### 設問一

#### 趣旨

表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

## ■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

《精査・解釈》

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答
③	1	1と解答しているもの	11.9	
	2	2と解答しているもの	80.2	◎
	3	3と解答しているもの	4.3	
	4	4と解答しているもの	3.0	
	99	上記以外の解答	0.0	
	0	無解答	0.5	

### 2. 分析結果と課題

○ 令和4年度【小学校】国語②三（正答率59.4%）において、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」に課題が見られた。また、令和5年度【中学校】国語④三（正答率50.5%）においては、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」に課題が見られた。これらに関連して、本問では、表現の効果について、根拠を明確にして考えることを求めたところ、正答率は80.2%であった。今回の結果から、表現の効果について考えることについては、改善の状況にあると考えられる。

(参照)

「令和4年度【小学校】報告書」 pp. 33-47

[https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22plang\\_04.pdf#page=15](https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22plang_04.pdf#page=15)

「令和5年度【中学校】報告書」 pp. 61-69

[https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang\\_04.pdf#page=44](https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_04.pdf#page=44)

- 解答類型1、3、4の反応率の合計は19.2%である。このように解答した生徒は、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。

解答類型1の生徒は、榎木の実に関する読者の経験を問うものであるということは読み取れているが、それによって対照的な性格の二人の兄弟の関係に関心をもたせる効果があると誤って捉えたものと考えられる。

### 3. 学習指導に当たって

#### 表現の効果について、根拠を明確にして考える

表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。その際、自分の考えを支える根拠となる段落や部分を挙げるなどして、根拠を明確にすることが大切である。

例えば、本問で取り上げたような特徴的な表現など、気になった表現をグループで出し合い、なぜ気になったのかを話し合うことを通して、表現の工夫とその効果について検討する学習活動が考えられる。

## 設問二

### 趣旨

文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる。

### ■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。 《構造と内容の把握》

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
③	二 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 兄の欄に「気が長い」のように解答している。 ② 弟の欄に「気が短い」のように解答している。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	90.0	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.4	
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	1.4	
	99 上記以外の解答	3.3	
	0 無解答	3.9	

### 2. 分析結果と課題

○ 解答類型2、3の反応率の合計は2.8%である。このように解答した生徒は、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることに課題がある。

### 3. 学習指導に当たって

#### 文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉える

文学的な文章においては、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の行動や心情などの描写を基にして、登場人物の人物像や相互関係などがどのように設定されているかを考えながら読むことが大切である。

### 設問三

#### 趣旨

事象や行為を表す語句について理解しているかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。  
《語彙》

#### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解 答 類 型		反応率 (%)	正答	
③	三	1	1と解答しているもの	3.7	
		2	2と解答しているもの	8.6	
		3	3と解答しているもの	61.3	◎
		4	4と解答しているもの	25.6	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.8	

#### 2. 分析結果と課題

○ 解答類型1、2、4の反応率の合計は37.9%である。このように解答した生徒は、「しきりと」という語句の意味の理解に課題がある。

解答類型4の生徒は、「気長な」兄が「木の下を探し廻る」姿を、注意深い様子であると想像し、「しきりと」の意味を「注意深く」と誤って捉えたものと考えられる。

#### 3. 学習指導に当たって

##### 事象や行為、心情を表す語句について理解する

事象や行為、心情を表す語句について理解するためには、動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増すとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考えることが重要である。

例えば、本などから見付けた事象や行為、心情を表す語句を取り上げ、辞書的な意味を踏まえて、文脈上の意味を考える学習活動が考えられる。その際、他の語句と比較しながらその語句が文章の中で果たしている役割を考えるなどして、語句の意味や使い方について理解を深めることが大切である。

## 設問四

### 趣旨

文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

#### ■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

《精査・解釈》

### 1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
③	四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① どのような効果があるかを書いている。 ② ①のように考えた理由を、「 <span style="border: 1px dashed black; padding: 2px;">          </span> 」の部分のような『あとに続く話』が、『一 榎木の実』にはあるが、『二 釣の話』にはない」という展開を踏まえて書いている。 ③ ②について、物語の内容を適切に取り上げて書いている。		
		(正答例) ・ 読者の意表を突く効果がある。なぜなら、「一 榎木の実」には、失敗した兄弟が、お爺さんのおかげで成功する場面が書かれているため、「二 釣の話」も同じような展開になると予想して読み進める読者が多いと思うからだ。 ・ 気長な兄と気の短い弟は、「一 榎木の実」では、失敗したあとお爺さんのおかげで成功するが、「二 釣の話」で、また同じ原因で失敗する。このような展開によって、人の性格はなかなか変わらないということが強調されている。 ・ 読者に物語の続きを想像させる効果がある。なぜなら、「一 榎木の実」では、お爺さんの教えによって、二人は好い実を拾うことができたが、「二 釣の話」では、魚は釣れず、お爺さんに失敗の原因を指摘されただけで話が終わっているので、その後、二人が目的を達成できたのかどうか気になるからだ。		
	1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	17.4	◎
	2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.1	
	3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	34.3	
	99	上記以外の解答	20.4	
0	無解答	27.7		

## 2. 分析結果と課題

- 令和4年度【小学校】国語<sup>2</sup>二（正答率68.5%）において、「人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること」に課題が見られた。また、令和5年度【中学校】国語<sup>4</sup>三（正答率50.5%）において、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること」に課題が見られた。これらに関連して、本問では、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることを求めたところ、正答率は17.4%であった。今回の結果から、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることについては、引き続き課題があると考えられる。

(参照)

「令和4年度【小学校】報告書」 pp. 33-47

[https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22plang\\_04.pdf#page=15](https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/report/data/22plang_04.pdf#page=15)

「令和5年度【中学校】報告書」 pp. 61-69

[https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang\\_04.pdf#page=44](https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_04.pdf#page=44)

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 次の物語を想像させる効果がある。なぜなら、「私とその丁度良い時を教えてあげます」と物語にあり、榎木の実が紅くなる時を想像させる効果があると思う。
- ・ 「釣の道具ばかりでお魚は釣れません」という言葉から、道具だけに頼ってはいけない、そして自分の判断力も必要ということを伝える効果があると考えました。

このように解答した生徒は、文章の展開の効果について書くことはできているが、理由を書く際、物語の内容を取り上げているものの、本問で着目している展開を踏まえて書くことができていない。

## 3. 学習指導に当たって

### 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

文学的な文章の構成や展開について考えるためには、作品の場面を捉えてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握することが求められる。その際、文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

例えば、あとの展開を予測しながら作品を読み、文章の構成や展開の効果について考える学習活動が考えられる。その際、文章の構成や展開の効果を考えることの意義を生徒が実感できるようにすることが大切である。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイデア例 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える

【本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

設問四 正答率 17.4%

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 C

エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。

教材

● 令和7年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語<sup>3</sup>

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

島崎藤村の「二人の兄弟」を読んで、構成や展開について考える学習をします。なぜそのような構成や展開になっているか、それがどのような効果につながるか考えていきましょう。

② 「一 榎木の実」を読んで、内容を確認する。

〔生徒の発言の例〕

「気長な兄」と「気の短い弟」が「丁度好い時」を覚えた話です。



お爺さんが二人の兄弟に榎木の実を拾うタイミングを教えています。

③ 「二 釣の話」の途中（調査問題15ページの9行目「大喜びで小川の方へ出掛けて行きました」）までを読んで、その後の展開を予想する。



この続きはどうなると思いますか。また、そう思ったのはなぜですか。「一 榎木の実」の内容を踏まえて、グループで話し合しましょう。

〔グループで話し合っている場面の例〕

「一 榎木の実」で、お爺さんに教えてもらったことを思い出して、魚を釣ることに成功すると思います。

「一 榎木の実」と「二 釣の話」では「丁度好い時」が違うから、また失敗を繰り返すと思います。



「一 榎木の実」と同じように、一度失敗してお爺さんにまた教えてもらおうと思います。



皆さん「一 榎木の実」の構成や展開を踏まえて、「二 釣の話」のこのあとの展開を予想できていますね。

④ 物語の続きを読んで、気が付いたことを確認する。

〔生徒の発言の例〕



今度はお爺さんが教えてくれる場面がありません。

二人の兄弟は「丁度好い時」を覚えたはずなのに、また同じ失敗を繰り返しています。



予想した展開になった人もいれば、意外な展開になった人もいたと思います。次回は、こうした展開による効果について考えていきましょう。

第2時

⑤ 物語の全体を見て、構成や展開の効果について考える。



前は「二人の兄弟」を読んで、構成や展開を確認しました。物語全体がこのような展開になっていることで、どのような効果がありますか。

※ 「構成」「展開」「効果」の意味を捉えられない生徒に対しては、必要に応じて別の言葉に置き換えたり、具体例を示したりするなどして、自分なりに考えられるようにする。

〔生徒の発言の例〕



「一 榎木の実」で成功した話のあとに、「二 釣の話」が続くことで、魚釣りに成功すると思っていた読者の予想を裏切って驚かす効果があると思います。

「一 榎木の実」でも「二 釣の話」でも失敗を繰り返すことで、人は簡単には変わらないということが読者によく伝わります。



「二 釣の話」には、お爺さんが「丁度好い時」を教える場面を書かないことで、その後の様子を読者に想像させる効果があると思います。



物語など文学的な文章を読むときには、皆さんが考えたように、構成や展開に着目して、なぜそのようになっているか、それがどのような効果につながるかについて自分なりに考えることが大切です。

※ このあと、別の文学的な文章を読んで、構成や展開について考える学習を行うことも考えられる。

【活用する際のポイント】

- 作品によって、構成や展開の特徴は異なる。その作品の特徴的な構成や展開に着目して、その効果について考えさせることが大切である。
- 文章全体や部分における構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、そのことがどのような効果につながるのかなど、自分なりの意味付けをすることが重要である。

※出典等

島崎藤村「二人の兄弟」（西本鶏介編『現代日本児童文学傑作選1』1980年5月 講談社）による。